



神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

2016-2017年度 第41週報 No. 1977 2017年(平成29年) 5月19日 第1977回 例会記録 5月28日発行

本日〈5月28日〉のプログラム

移動例会「春の家族会」
～東京遊覧 & 帝国ホテルバイキング～



PHOTO 加野亮一 会員

司 会 白鳥 厚夫 副幹事

誕生日祝 赤堀 和人 会員 (5月30日)

点 鐘 植田 清司 会長

斉 唱 「我等の生業」
ソングリーダー 古澤 一憲 会員

四つのテスト 横溝 亘 職業奉仕委員長
(第1例会のみ)



ゲスト紹介 鈴木 佳秀 様 (新発田RC)



2016-2017年度 RI会長 ジョン F. ジャーム



第2590地区 ガバナー 高良 明

会 長 植田 清司	会 計 白井 康夫
会長エレクト 矢野 修二	副 会 計 河野 明光
副 会 長 西山 潔	S A A 田中 龍太郎
副 会 長 伊東 英紀	副 S A A 茂木 知子
幹 事 小山市 康	副 S A A 吉田 隆男
副 幹 事 白鳥 厚夫	クラブ会報 加野 亮一

例会日 毎週金曜日 0:30 ~ 1:30 PM (第5金曜日 6:00 PM)
例会場 ホテルキャメロットジャパン
URL <http://www.kanagawahigashi.com/>
E-mail kerc@beach.ocn.ne.jp

事務局 ホテルキャメロットジャパン内
〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3
TEL: 045-314-3900 FAX: 045-314-3555
創立記念日 昭和 51年 5月 29日

結婚記念日祝

青柳 紀 会員 (5月22日)
吉田 隆男 会員 (5月31日)

**会長報告**

植田 清司 会長

- ・ガンスフ・ゲレルさんよりお手紙が届きましたのでご報告申し上げます。

幹事報告

小山 市康 幹事

- ・本日、例会終了後に5月度定例理事会を開催致します。
場所 3F ナイト
- ・次週26日は28日「春の家族会」へ移動例会となる為、例会はお休みとなります。お間違えのないようよろしくお願い致します。
- ・2017年国際ロータリー理事会にて、新ゾーン編成の発表がありました。「コーディネーターNEWS」を回覧します。

◎例会変更のお知らせ

- *横浜保土ヶ谷ロータリークラブ
6月6日(火) 夜間例会
6月27日(火) 夜間例会
- *横浜鶴見西ロータリークラブ
6月21日(水)→18日(日) 夜間移動例会
- *横浜北ロータリークラブ
6月13日(火) 夜間例会
- *横浜都筑ロータリークラブ
6月21日(水) 夜間例会
- *神奈川ロータリークラブ
6月12日(月) 夜間例会
- *横浜西ロータリークラブ
6月7日(水)→5日(月) 夜間移動例会

出席報告

但野真実子 出席委員長

会員総数	52名	(32+20)名	
出席会員数	39名	(23+16)名	
出席率	81.25%		
ゲスト	1名	ビジター	0名
前回補正後	86.67%	前々回補正後	91.30%

スマイルボックス

吉田 隆男 副SAA

新発田RC 鈴木佳秀様 お世話になります。よろしくお願ひ致します。

赤堀和人君 誕生祝い、ありがとうございます。東京オリンピックの年に生まれ、53歳になりました。茂木先生を見習い長生きしたいと思います。

吉田隆男君 結婚祝い、ありがとうございます。

植田清司君 ①鈴木佳秀様、本日の卓話、よろしくお願ひ致します。②昨日の新会員歓迎会、親睦活動委員長をはじめ委員の皆様、設営ありがとうございました。出席された皆様、お疲れ様でした。

石川正三君 本日のスピーカーはフェリスの鈴木先生です。ご清聴の程を・・・。

山本 登君 暑い!

飯田泰之君 昨日は、新会員歓迎会出席の皆さん、ご苦労様でした。

小山市康君 昨日の新会員歓迎会ご出席の皆様、ありがとうございました。佐藤委員長、お疲れ様でした。

角田伯雄君 新会員歓迎会参加の皆さん、お疲れ様でした。

天野公史君 鴻P P、先日は大変お世話になりました。とても充実した1日になりました。

白鳥厚夫君 昨夜の新人歓迎会出席の皆様、ご苦労様です。大久保さん、横山さん、今後も宜しく。

佐藤勝彦君 会長、幹事はじめ歓迎会出席の皆様、ありがとうございました。大久保さん、横山さん、今後ともよろしくお願い致します。森永さん、お疲れ様でした。

中野真理さん 先週は出産祝いをありがとうございました。本日は所用により出席出来ませんが6月から本格復帰する予定です。よろしくお願ひします。

横山博行君 昨夜の歓迎会では大勢の方々に歓迎頂き、楽しく過ごさせて頂きました。ありがとうございました。佐藤さん、赤堀さん、森永さん、ありがとうございます。また、加藤さん、江森さん、田中さん、遅くまでお付き合い頂き、ありがとうございました。お蔭様で飲みすぎました!

新会員歓迎会出席者一同 昨日の歓迎会、お疲れ様でした。青柳さんのお祝ひもあり、ニコニコへ入金出来ました。

5月19日	15件	43,000円
本年度累計		1,688,760円

「フェリス女学院の沿革」

フェリス女学院 学院長、新潟大学 名誉教授
鈴木 佳秀 様
(紹介者 石川 正三 会員)



フェリス女学院は、1870年（明治3年）に創立された、日本で一番歴史の古い女子教育機関です。

教師であったメアリー・E・キダーという独身女性が、1869年（明治2年）に、ブラウン宣教師夫妻と共に横浜に上陸し、直ちに新潟に向かっています。ブラウン宣教師が、新潟英学校の教師として招聘されたからです。メアリーさんは、新潟の記録（新潟町外国人改め）では「娘」として同行したことが知られています。アメリカでもまだ女性参政権が認められず、女性では牧師や宣教師にはなれない時代でした。日本ではキリシタン禁制の高札が掲げられていた時代に、女子教育とキリスト教伝道のため日本に渡ってくる決断をしたのは、並大抵のことではなかったと思います。宣教師にはなれないが、教師として女子を教えたいという使命感のなせる業でした。実際、キダー女史は、新潟の宿舎で既に女子を相手に英語を教え始めています。

しかし事態が一変します。多くの青年たちの求めに応じて、ブラウン宣教師が宿舎で聖書を教え始めたのですが、それを聞いた新潟県副知事の逆鱗に触れてしまい、新潟英学校から退職を通告されてしまいます。わずか10ヶ月の滞在で、彼ら一行は新潟から横浜に戻ることにしたのです。

横浜に戻ったキダー女史は、1870年（明治3年）に、ヘボン宣教師の夫人クララが教えていた生徒を引き受けて、直ちに女子だけのキリスト教に基づく学校を横浜で立ち上げたのです。フェリス女学院は、独身の女性教師であったキダーさんを日本に派遣する英断を下し、精神面でもまた財政面でも支援を惜しまなかった、アメリカ改革派の外国伝道局総主事フェリス父子の名をとって、キダーさんがフェリス・セミナリーと呼んだことに由来します。フェリス女学院は、横浜の歴史と共に歩んできた学校です。

教育内容は、英語と音楽教育を重視した、当時の最先端の教育を施すものでありながら、西洋一辺倒でなく、日本の伝統を重視し裁縫や日本の古典なども教える体制を採っていました。アメリカから来日した教師たちの他、英語以外の授業を担当する日本人教師も採用されていました。寄宿舎を立て、共同生活を通して、毎日の礼拝を欠かさず、賛美歌を歌い、同時に英語をマスターし

て将来を担う女性としての生き方を教え、自由な精神でそれらを学べるようにしていたのです。その教育理念は、For Others（他者のために）という言葉に結実しています。関東大震災や戦争中の苦しい時代を生き抜いて、戦後には中学・高等学校だけでなく、短大や四年制大学を設置するに至り、2020年には創立150周年の時を迎えようとしています。

新会員歓迎会開催

5月18日（木）、今年度入会されました大久保由美子会員と横山博行会員の歓迎会を『煌蘭』にて開催致しました。当日ご出席下さいました皆様、お疲れ様でした。

大久保会員、横山会員、今後ともよろしくお願ひします。



ロータリーニュース

バーチャルリアリティでロータリー活動の影響を伝える

ロータリーがグーグルと提携し、善意の活動が世界に与える影響を追体験できるバーチャルリアリティ映像を制作。

ロータリーはこの度、「ポリオ」と「平和」という2つのテーマを扱った3分間のバーチャルリアリティ映像を制作しました。360度のこの映像は、見る人があたかもその場にいるような感覚を与えます。

紛争地域の一人の子どもの生活を追った映像で、ささやかな思いやりの行為がいかに大きな影響を与えているかを、現場の目線で追体験できます。

この映像の初披露会が、アトランタで開かれるロータリー国際大会中、6月13日に行われます。その後は、10月24日の「世界ポリオデー」に向けて広く公開される予定です。

ロータリーがバーチャルリアリティ技術を導入したのは、これが初めてではありません。2016年10月、ユニセフの支援の下、ロータリー初となるバーチャルリアリティ映像「I Dream of an Empty Ward（ポリオ病棟に患者がいなくなる日を夢みて）」を制作。

この映像では、2011年以来ポリオ症例がないインドで、幼少時にポリオによって足がまひしてしまった少女、アロキタさんの現在を紹介しています。

まるで実際にデリーの街中にいるような感覚になるこの映像は、インドの人びとの生活や、ポリオをなくすそうと努力する人たちの様子を伝えています。また、インド唯一のポリオ病棟があるセント・スティーブンス病院で、11年ぶりに自分の足で歩くアロキタさんの姿を感動的にとらえています。

風を揚げて理科を学ぶ

小学校理科の授業をサポートするロータリープロジェクト

ラオメイ国民小学校（新北市）の校庭の空を見上げてみましょう。いろいろな色、かたち、大きさの凧が彩りを添えています。教室では、生徒たちが凧作りに熱中し、競争に勝つための試行錯誤を繰り返しています。

通りがかった人には遊んでいるように見えるでしょうが、教師たちはこれが遊び以上のものだと思っています。なぜなら、これは理科の授業、正確にいうと物理の授業だから。

「これは純粋な物理学で、風を揚げる知識を学ぶことは航空力学と物理学を学ぶことになる」と教師のツイ・シン・イーさんは話します。風を作って揚げることは、いかに理科が、（遊びも含めて）日常生活に影響するかを学ぶことであり、学ぶ意欲も向上します。飛ばない凧の失敗例も教材になります。何度か試みて失敗し、諦めそうな生徒がいれば、「どうして凧が揚がらなかったのだろう」と子どもたちに問いかけます。

ラオメイ小のこの授業は、台北北安ロータリークラブによる“Love Kites, Love Lao Mei”（凧が好き。ラオメイが好き）という理科教育プログラムです。ロータリーのグローバル補助金を活用した取り組みで、農村地域の公立学校に通う生徒たちの理科の理解向上をめざしています。

「特に農村地域の理科の授業では、ほかの科目と比べて教材やリソースが少なく、制度的な支援も少なかった」と、同クラブの元会長で第3520地区ガバナーも経験したポーリン・リャンさんは話します。理科の基礎知識がなければ科学的な考えはできないと、教師たち、またロータリークラブ会員たちは考えます。生徒の関心を引き、科学の知識を高めるには、効果的な授業進行のスキルと科学的理解が教師に求められます。

「だから私たちは、視聴覚教材や能力開発リソース、また地域支援や評価を含む体系的なアプローチの理科教育プログラムを構築した」とリャンさんは話します。

ラオメイ国民小学校では、凧揚げを通じて、算数、工学、理科など、さまざまな科目を教えています。「プログラムのおかげで、基礎的な科学理論を教えることができる」とリャンさん。

プログラムでは、レバー、車輪、車軸、ギア、滑車といった簡単な機械とエネルギーについて学びます。プログラムの持続可能性を高めるため、教師への研修も行いました。プログラムの一部はグローバル補助金によって運営されており、海外パートナーであるロータリー第3700地区（韓国）からも援助を受けています。

「私たちは、教育と識字力を高めるプロジェクトを実施したいと思っていました。この理科教育プログラムは、ロータリーのたゆまぬ努力を示すもの」と、第3700地区のソン・ホー・リーさんは述べます。

このプログラムが3年前に開始して以来、生徒の学習意欲が高まり、学習障害のある生徒の参加率も向上していると教師たちは報告しています。「プログラムは教師にも良い影響を与えており、教師への研修で理科の知識と教授スキルが向上した」とイーさんは話します。

昨年には、台北北安クラブの会員が小学校を訪問し、プログラムを視察。クラブ会長のアイリーン・ルーさんは、次のように述べました。

「生徒の学習は、教え方次第で大きな差がでると感じました。理科の教え方も、教師がどの程度理解しているかによって大きな差がでます」



ロータリー理科教育プログラムの導入により、生徒たちは、簡単な機械やエネルギーを使って理科を学ぶことができます



次回〈6月2日〉の予定

テーマ 「外国人留学生受け入れの現状と課題

－留学生ビジネスの可能性－

(株)インバウンドジャパン 代表取締役 各務 智仁 様
(紹介者 金森 欣一 会員)